

進路だより 「^{さい}犀」

進路だより 第3号
令和5年8月29日
大垣商業高等学校
定時制進路支援部

○ 近年の動向

全国規模で少子化が進んでおり、文部科学省が公表した2023年度学校基本調査によると、高校生は約290万人（前年度比約4万人減）となっています。その一方で、大学の学部生は前年度よりも約8000人増えて、過去最多となりました。



このデータから分かるのは、進学者数が増えており、就職者数は減っているということです。その影響を受けて、有効求人倍率（1人あたり何件の求人があるか）は、高卒の方が大卒よりもかなり高くなっています。

数字だけで見ればですが、高卒で就職する方が進学するより就職を決めやすいと見ることができます。ライバルの数が少ないので、チャンスです。また、進学後の就職は何社も同時に受験することができますが、高卒の就職は基本的に1社ずつしか受けることができませんので、1社あたりの受験者数も少なくなります。

ただし、高卒と専門・短大・大卒では求人の内容や職種が異なってくるので、注意をしてください。給与面もそうですが、中には進学しないと就けない職業や職種が存在します。資格の必要な看護師などが代表的です。一方で、仕事内容が高卒と変わらないような求人もあり、そのような職に就いた場合は、「たくさんお金を払って進学した意味は何だったのかな？」となってしまいうでしょう。

だから、進学をしたい人は、「何を学びたいのか」、「どのような力をつけたいのか」、「卒業後はどのような仕事に就きたいのか」をなるべく明確にして、進学する意味を説明できるようにしておいてほしいと思います。しっかりと能力を身につけないと、高卒の方が自分の求める企業に就職できることもありうる時代となりました。目的意識をもって進学するようにしてください。

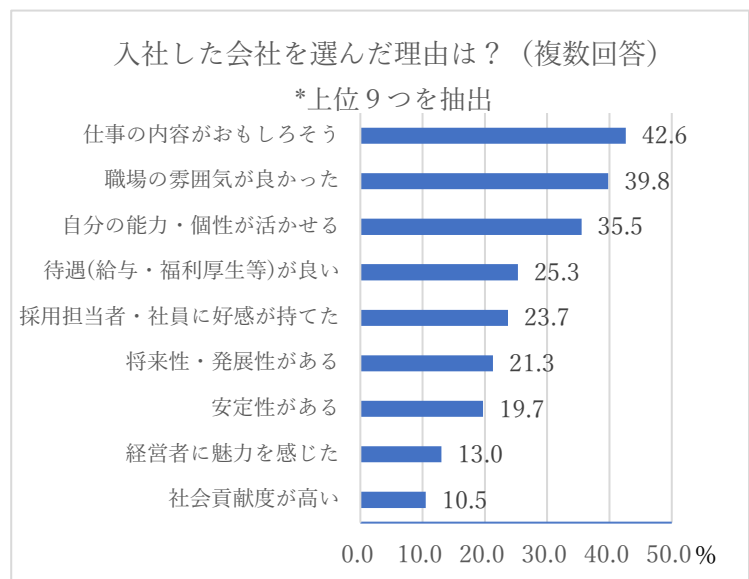
就職・進学のどちらが正解というのはありません。決めるのはあなた自身です。それぞれのメリット・デメリットを理解した上で、後悔のない選択をしましょう。

○ 会社を選ぶ基準は？

会社を選ぶポイントは例年あまり変わらないようで、右のようになっています。

定まった基準があるわけではないので、優先順位を自分の中でしっかりと決めることが大切です。様々な情報を収集したり、家族や教員、先輩方にアドバイスをもらったりして、自分なりの条件を考えてみてください。

何度も言うようですが、アルバイトを通じて「働くとは何か」を学んでおくことも重要です。主体的な進路選択ができるように、色々な経験を積んでおきましょう。



資料：東京商工会議所「2019年度中堅・中小企業の新入社員意識調査」